

Kingfisher News

11月に入り、朝晩の気温が低くなるようになりましたが、日中は相変わらず20℃を超える状況が続いています。地球温暖化が進んでいる明らかな証拠だと思います。

これから何回かは、広島県温暖化対策活動促進補助金を頂いて製作した、「気温上昇が原因と考えられる現象」を主題としたパネルの紹介をしたいと思います。

トピック

気温上昇が原因と考えられる現象（1）

今回は、「北極海の海氷面積の推移」についてです。

アメリカ、カナダ、ロシアなど北極海を囲む8か国が加盟し、日本などもオブザーバーとして参加する、北極評議会の閣僚会合で、2021年5月に発表された報告によると、北極圏の温暖化は地球全体の平均の3倍の速さで進行していると言われていています。1971年から2019年の約50年間で地球全体の年平均気温の上昇は1℃でしたが、北極圏では3.1℃に達しました。

地球温暖化に伴い、直近5年(2017-2021年)平均の北極海の海氷面積は、1979-1983年の5年間の平均と比べて、約280万km²も減少したと言われていています。これは、日本の国土面積(約38万km²)の約7倍以上です。減少傾向にある北極海の海氷面積は、2012年9月には過去最少の約318万km²を記録。記録的な高温となった2020年9月も、観測史上2番目に小さい約355万km²となりました。

また、雪は太陽光を10~20%しか吸収しないのに対し、水は90%も吸収します。つまり、北極海の海氷が減ると、太陽熱の反射が弱まるので、北極の温暖化はもちろん、地球全体の温暖化をさらに加速させてしまうと言われていています。仮に、北極の氷が完全に消失すれば、地球全体の温暖化は2倍のスピードで悪化するという報告もされています。

気温上昇が原因と考えられる現象（1）

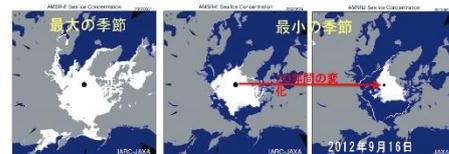
北極海の海水域面積が減少している

北極海の海水域面積の推移(1979~2021年)



※数値は各年の最小値を表記 ※ウェザーニューズ グローバルアイスセンター調べ

減少傾向にある北極域の海氷面積は、2012年9月には過去最少の約318万km²を記録。記録的な高温となった2020年9月も、観測史上2番目に小さい約355万km²を記録しました。



人工衛星からみた北極海氷の広がり(A.D.Sより)

海氷の消失で地球全体の温暖化が加速する。

○雪は太陽光を10%~20%しか吸収しないのに対し、水は90%も吸収します。つまり、北極海の海氷が減ると、太陽熱の反射が弱まるので、北極の温暖化はもちろん、地球全体の温暖化をさらに加速させてしまうのです。

○北極の水が完全に消失すれば、地球全体の温暖化は2倍のスピードで悪化すると言われています。



活動予定

第22回地球温暖化防止パネル展：

2024年4月5日から4月18日フジグラン緑井4階 ギャラリー「passage」

活動報告

第21回地球温暖化防止パネル展：

2023年8月24日から8月30日イオンモール広島祇園2階 イオン店舗前

第20回地球温暖化防止パネル展：

2023年7月1日から7月17日福屋広島駅前店11階 レストスペース

詳しくはホームページをご覧ください。



TEL: (082) 548-8822 FAX: (082) 548-8833

e-mail: information@ngo-kingfisher.or.jp

<https://ngo-kingfisher.or.jp>